



温州 × 永嘉

雁南逸園緑有桜

三月の暖かい風は静かに雁南、楠溪江の畔を吹き抜けます。まるで少女のロマンのように、夢や幻のようです。鶴盛鎮下家畧村過路浜の近くにある雁南逸園は、桜が満開になり特に綺麗に見えます。



遠くから眺めると、暖かい日差しの下で、無数の桜が咲き誇り、山谷もが春の気配を感じて蘇ります。園内に入ると、台湾の牡丹桜、日本のソメイヨシノ、初美人、八重紅垂れ桜、紅粉佳人、紅葉桜、一葉桜など、異なる品種の桜の木が見えます。2月からにかけて、明雨にかかわらず、花見の良い季節です。

桜園に身を置いて、亭の中や外に、観光客は散らばって座っています。時々、漢服姿の若者が笑いながらすれ違います。佳人春鑑賞園のように、まるで唐や宋の時代にタイムスリップしたような気がします。石碑は花々の中に立ち、「桜の緑、千里で会いに来ます」。花の時期が来ると、千里を離れても、思い切った車を走らせて見に来ます。この言葉はこの場面に確かにぴったりです。

今日にいたるまで、秀美な楠溪江は依然として青春の元気ある甌越族の子孫を養っています。山水の間には逸園の春色が漂っています。この瞬間に、夢の中の桜が林になりました。そしてこの瞬間に、千里の再会で桜が緑を結びました。

景勝地：温州市雁南逸園
お勧めのコース：温州市の都心部から雁南逸園までは車で約1時間



空中の湖の影、桜は雲の如き

浙江省西部の山々の中、呉越旧道が交差するところに、「江南第一池」と称されている絶景があります。海拔1100メートルのところに、面積が1000ムーにも達する湖は清冽で青く光ります。水天一色で、「神地浩瀟、天鏡浮空」と言えるこの景色はまさに浙西天池です。



曲がりくねる山道ですが、すごく平坦で綺麗です。涼しい山の風に吹かれ、高い空に漂う白い雲を見つめると、まるで今高原地帯にいるような錯覚に陥りますが、あたり一面ピンク一色です。天池の畔まで車を走らせると、空が手に届きそうな距離にあり、重なり合う山々の中に、一面の野桜が周りをめぐって、雲や霞のように、湖の上に映っています。

深い山に春が遅れて訪れるとは限りません。至るところに山桜が咲き誇っています。天池の野桜は全て自然に育ったもので、桜の姿で鑑賞の趣を楽しめるだけでなく、運が良ければこの原住民、梅花鹿に出会えるかもしれません。野山の趣を帯びる早春の気配と共に、流水、野桜、梅鹿、観光客が一枚の絵巻を構成し、まるで春のロマンをこの山林に入れ込んだようです。不意に春風に吹き落とされた花びらが、ひらひらと空気の中に舞い、森で舞い上がる精霊のように、第一筋の春光を世の中に運んでくれます。

斜陽の中で、15里の古道を歩き、曲がりくねる通りは静かなところに導いてくれます。段差が激しく、天地は一つになっています。都市の騒がしさを遠く離れ、野山の雰囲気、簡素、シンプルな美を楽しめます。

景勝地：杭州市臨安浙西天池景区
お勧めのコース：杭州市の都心部から浙西天池までは車で約2時間



桜

高砂の尾の上の桜咲きにけり
外山の霞立たずもあらなむ

暖かい春はまだ、桜が満開になる時期です。日本の開花である桜は浙江省でも大変人気です。同じ東洋文化が基礎にありますが、桜は様々な豊作の意味は、更に春の気配を感じさせます。桜の花は今日まで伝承され、浙江省でも一期一会の春のイベントです。



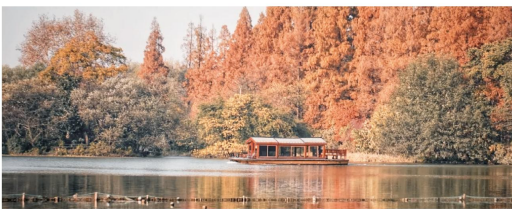
杭州 × 孤山

梅妻鶴子山不孤



孤山は孤独ではなく、断桥は断っているわけではありません。白堤に沿って散歩すると、見切れないほどの美しい風景が広がり、見た人はリラックスしてしまうでしょう。孤山の梅は特に懐古の思いを帯び、細かく味わうのがおすすめです。宋代、孤山は「梅花島」と称され、今は「放鶴亭」、「宋梅」、「林和靖の墓」などの古跡が残っています。観光客が一步ずつ歩みを進め、心を落ち着かせると、自然と「西湖処士の詩を読むより、年々水に臨んで幽姿を觀る」という心境になります。

孤山の梅花は歳月の沈積を隠し、長い年月の芳醇を醸し出して、濃厚な文学的雰囲気と不朽の人生趣旨を悟らせます。孤高に自分を鑑賞し、誇れ高くても自負しません。毅然としていて上品さがあります。詩人が俗流に流されず、大らかでゆったりとした隠士の風格を感じ取れます。



景勝地：杭州市西湖風景区
お勧めのコース：杭州市蕭山國際空港から西湖景区までは車で約45分



余杭 × 超山

梅林は海の如き、自ら香る

超山の景色は景と植が融合され、大明堂を中心に、千里京杭大運河が僅かに残った広濟橋に似ている大門楼と塘栖古鎮の回廊があります。このようなスローライフの中で宋梅亭、浮香閣では文人の後ろ姿がたくさん残っています。近代芸術巨匠、呉昌碩の墓と記念館は静かに彼と梅の物語を語っています。



「十年も香雪海に來なかつたら、梅が私を憶い、私も梅を憶う」は浙江人の初春の約束となっています。梅の香りを嗅ぎ、一面の雪海を鑑賞して、高雅な絵巻に入り、春の呼びかけを呼び覚まします。



ここは超山、浙江の梅鑑賞の一番いいところです。塘栖古鎮の東南に位置しており、阜亭黄鶴の外にあるため、「超山」と呼ばれています。香雪海はこの山林で千年以上存在し、その独特な「古、占、絶」により、蘇州の鄞園、無錫の梅園とともに「江南三大探梅勝地」と呼ばれています。

山道を行くと、漂う赤い雲とまだ溶けない春の雪が目に入ります。この赤には恥ずかしさが見えるようです。五歩歩くと花々が見え、もう五歩歩くと山の斜面が見えてきて、そこには計千本余りの木があり、一本の木には一万輪の梅が咲いています。香りは十里遠くまで伝わります。高い所に登って遠くを眺めると、山麓はぐるりと取り囲んで、自然と雪の海を形成します。羅浮仙境もこの景色に敵わないでしょう。

景勝地：杭州市余杭超山風景名勝区
お勧めのコース：杭州市の都心部から余杭超山風景名勝区までは車で約1時間



梅

梅の花夢に語らくみやびたるく
花と吾思ふ酒に浮かべこそ

「梅花の香りは苦寒から来たる」。奈良時代以来、梅は日本の文人が愛する花となり、千年の間、彼らは梅についての詩を多く残しました。「万葉集」だけでも梅に関する短歌が124首もあり、梅の美しさが高く評価されていることが分かります。



花咲く春



一月刊・2022/2

中国・浙江省
ZHEJIANG PROVINCE, CHINA



桃の花

春の苑紅にほふ桃の花
下照る道にいで立つ乙女

「桃紅容若玉、定似昔人謎」桃の花は三月三日の日本のひな祭りの定音の花です。桃の調いは娘の頬の赤みのように愛おしいです。昔から桃の花は文人墨客の作品で美しさを愛敬し、東晋文学者の陶淵明が書いた「桃花源」には世の中の人々が理想の生活に対する憧れが託されています。

寧

波

奉化

天下第一の桃花源

「桃の夭夭たる、灼灼たる其の華。十里桃林、唯だ奉化にある」。これは浙江省に伝わる、よく知られている言葉です。ここにはかつて「中国の一番」とされていた奉化水蜜桃があります。大きくて丸く、果肉がたっぷりで皮が薄くてジューシーです。そして食感は柔らかくて甘いです。そのため「瓊漿玉露、瑶池珍品」と称されています。桃は奉化のシンボルであり、桃の花は奉化の春にとっては、期待に満ちた活気を表します。



すべての花はすべて生命の都市に対する懐かしさで、すべての都市はすべて自分の情念に属するのです。浙江省寧波市の奉化は桃の花が一番好きところで、ここでは毎年、桃の花祭が開催されます。観光客は織り機の糸のように、激しく行き交い、満面の笑みを浮かべています。奉化は浙江省で一番広くて、一番古い桃の林があります。溪口鎮新建村は桃の花と桃の木で有名になり、「天下第一の桃花源」と呼ばれています。村には白い壁に黒い瓦の古風な民家があります。村の外は山を一面覆った1000メートルの桃の林で、情緒と色彩を植え付けた

◎ 景勝地：寧波市奉化桃花源景区
お勧めのコース：寧波市の鄞都心部から桃花源景区までは約2時間



陽春の三月、桃の林が一面に咲き誇り、熱烈な炎のようにこの山城を熱くさせ、人々を夢中にさせます。一面のピンクは山の斜面に沿って延々と続き、まるで赤い霞や雲のようです。その中を歩くと、桃の花の仙人と一緒に遊覧しているかのような気分になり、花の香りが満ちて、帰る場所も分からなくなります。桃の林の奥深く、千丈岩の滝が高いところから流れ落ちます。進む緑色の煙で、文人たちは名作を残しました。「地を抜くこと万重、青嶂の立ち、空を懸くこと千丈、素流の分く。共に見る玉女の、機絲を掛くるを、日に映えて運び成る、五色の文。」北宋大家の王安石でさえも、この桃の林の絶景に魅了されました。

武侠江湖桃花仙



東方文化の中の武侠英雄情はいつもロマンチックな雰囲気をもたらします。日本には武士道があり、中国には俠客情があります。最も有名なのは金庸が書いた桃花島の持ち主の黄藥師です。彼は絶世の武功を身に付け、大らかで楽しむ心を持ち、極美しい小島の桃花島に隠居しました。



陽春の三月に、桃の花が満開になり、仙境のようにぼんやりしています。水辺の亭や曲がりくねった道で結ばれた山水の時空に身を置くと、刀剣の影、愛憎は歴史と空間をタイムスリップした煙雲のように、自分とすれ違います。一片の桃の花が肩に落ち、まるで別の次元に入りました。豪快な江湖の雰囲気を感じ、気持ちが一ぱと明るくなります。

◎ 景勝地：舟山市桃花島風景区
お勧めのコース：寧波市から沈家门港に着くとフェリーに乗り換えます。桃花島までは合計約2時間半。

舟山 × 桃花島

ホトトギス

青山を 振りさげ見れば
つつじ花 にほへ娘す

美人と云えば西施ですが、花なるとホトトギスに勝てる花はありません。中国にはホトトギスの花と鳥のホトトギスについての美しい伝説があります。ホトトギスの血はホトトギスの花を染めためたため、花もホトトギスと名付けられました。浙江省でいたるところに見られるホトトギスの花は吉祥と喜びの象徴であり、春日の日に花見をすべし、「一目で千本万本の木を見せしこころになります。」



天台 × 華頂峰



沙羅の花が咲き、禅林も香る

浙江省の天台山華頂峰、東は東海を眺め、西は雁蕩に隣接し、南は括蒼と照り映え、北は寧海です。山々が花びらのように集まり、1つ1つ重なり合い、形は千葉の蓮の花のように、七十二の峰もあります。華頂峰はちょうど蓮の花の頂上にあるため、「華頂」と名付けられました。峰の下には仏教の聖地、華頂寺があります。僧侶や参拝者、鳴り響く梵音がこの山に靈氣を付け加えます。



唐の時代からここは文人雅士の詩と遠方です。拝経台の日の出、南坡廻の李太白書堂、峰の下の華頂寺、満山のホトトギスの花は鮮やかです。梵語では雲錦ホトトギスは沙羅と言います。そのため現地の人は雲錦ホトトギスを沙羅の木と呼んでいます。清の時代の邑人齊周華は『台岳天台山紀行』で華頂を訪ねたことについてこう書きました。「高い山では温度が低く、花の咲く時間もよく遅くなります。沙羅が一番その環境に適するため、四月に花が咲き、木蘭や芍薬に似て、その香りは禅林を満たします。但し、この品種はこと石梁だけがあり、非常に特殊です。」

◎ 景勝地：台州市天台国清風景区
お勧めのコース：台州市天台県から華頂峰までは約1時間

景寧 × シェ郷



雲錦に魅了され、思わず頂上に登る

景寧シェ郷は独特の自然環境と完全に保存されているシェ族文化により、中国唯一のシェ族自治県になりました。



シェ郷に来ると生い茂る山林が見え、シェ族の歌が鳴り響きます。声のする方を眺めると、山腹に1000メートルの高山雲錦ホトトギスが咲き乱れています。一本の木に千の花が咲き、星屑のように、山林に散らばり、目が眩んでしまいます。これが景寧県内の最高峰である上山頭です。主峰の海拔は1689.1メートルに達し、二つの峰は高く険しいです。山にある1000メートルのホトトギスは浙江省の高海拔で成長する大規模の野生ホトトギス林です。シェ族の情熱と多彩さのように、ホトトギスが咲く頃、シェ族の独特な飾物のインスピレーションは山林から降りられているように、色が鮮やかで、自然の色彩を全て取り入れました。

◎ 景勝地：麗水市上山頭風景区
お勧めのコース：景寧シェ族自治県から上山頭風景区までは車で約50分